



日野市立日野第四小学校

校長 三浦 寛朗

令和6年11月号

学校 Web ページ



学校標語 「夢中になれる 夢中にさせる 日野四小」

<https://www.hino-kyo.ed.jp/e-hino4/>

きまりを守るということとは

校長 三浦 寛朗

秋の日はつるべ落とし（井戸の釣瓶が落ちるように早く沈み、暮れてしまう。秋の日暮れが早いことのたとえ。）と言いますが、最近はずっかり日没も早くなり、秋も深まってきました。あの猛暑が嘘だったかのように、朝晩はめっきり冷え込み、肌寒さを感じる今日この頃です。

早いもので、今年度も折り返し地点を過ぎました。子供たちが年度当初に掲げた目標や目的への気持ちが少し緩んでくる時期かもしれません。先日も廊下を走っている子がいて、注意しました。走った理由を聞くと、中休みに早く校庭に出て遊びたかったからだそうです。廊下を走ってはいけないことは分かっているけれど、早く遊びたいという自分の気持ちが勝ってしまい、きまりを破ってしまったということでした。

「なんで学校にはきまりがあるの？」こんな質問を、自分が学級担任をしているときに何人かの子供からされたことがあります。そのたびに私は「みんなのためだよ。」と答えていました。そして、なぜみんなのためなのかを一緒に考えていました。

学校にある様々なきまりは「全ての子供たちの安全・健康を守ること」「全ての子供たちが楽しく、安心して学校生活を過ごせること」を確保するために決められています。もしも、廊下は静かに右側を歩くというきまりがもしなかったら、みんなが好き勝手に走り回って誰かとぶつかったり転んだりして大けがをしてしまうかもしれません。大きな声で騒ぎながら歩いていたら、授業に集中したい人、一生懸命勉強したい人の邪魔になってしまうでしょう。

大人の社会に様々なルールがあるように、学校生活の中にはたくさんのきまりや約束があります。「朝は8時15分から8時25分の間に校舎に入る」「廊下や階段は右側を静かに歩く」など、登校した時から下校まで、様々なきまり、約束が決められています。「きまりや約束」がたくさんあると、それだけで自分の自由が無いような、窮屈な印象を受けてしまう人もいないかもしれません。しかし大切なのは、なぜそのような「きまりや約束」が必要なのかという背景です。

（子供たちに「きまりや約束」を教える、指導する立場の教員にとって、その「きまりや約束」が本当に必要なのかどうかという視点も大切です。本校では令和4・5年度と「日野四小のきまり」を見直し、子供たちの意見を取り入れて改正してきました。）

例えば、スポーツやゲームは必ずルールのもとに行われます。ルールがなければ、人は自由に自分の好き勝手に行動してしまい、みんなが同じ気持ちで楽しむことはできないでしょう。想像してみてください。ある野球チームが試合にどうしても勝ちたいからといって、自分たちだけ3アウトではなく、6アウトで攻守交替と言い出したら、どうなるでしょう。みんなが楽しめるものではなく、野球ですらないですね。スポーツやゲームのルールは「みんなが一緒に楽しい時間を過ごすためのルール」となります。また、車道に広がって歩いたり道路で遊んだりしていたらどうなるでしょうか。交通事故が起ってしまうかもしれません。道路は右側を広がらずに歩く。道路では遊ばない。」というルールは、「自分の安全のための、命を守るためのルール」となります。

学校生活でのきまりや約束、マナーも同じように考えられます。自分だけが楽しければ、満足できればいいという考え方ではなく、自分も含めて周りにいるみんなが安全で気持ちよく過ごせるように、お互いに気を配りながら生活することがとても大切です。このような行動は「思いやり」の心から生まれるものであり、社会性を身に付けるために必要なことでもあります。「きまりやルールを守らないとうまくいかないことがある」ということだけではなく、「きまりやルール、マナーを守るとは周りの人への思いやり」という気持ちが、子供たちの社会性を育むことになるのではないのでしょうか。

学校では、様々な機会を通して、子供たちにきまりを守ることの大切さや、そのきまりがある理由について指導したり、一緒に考えたりし、規範意識を育んでいます。ぜひご家庭でもきまりを守るの意味についてお子さんと一緒に考えてみてください。

学校だより9月号でもお知らせしましたが、11月2日（土）にはマイプラフェスタです。子供たちが自分で学び深めてきたことを、自分の言葉で語ります。保護者の皆様、地域の皆様にご参観いただき、子供たちの発表を一緒に楽しんでいただければと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。